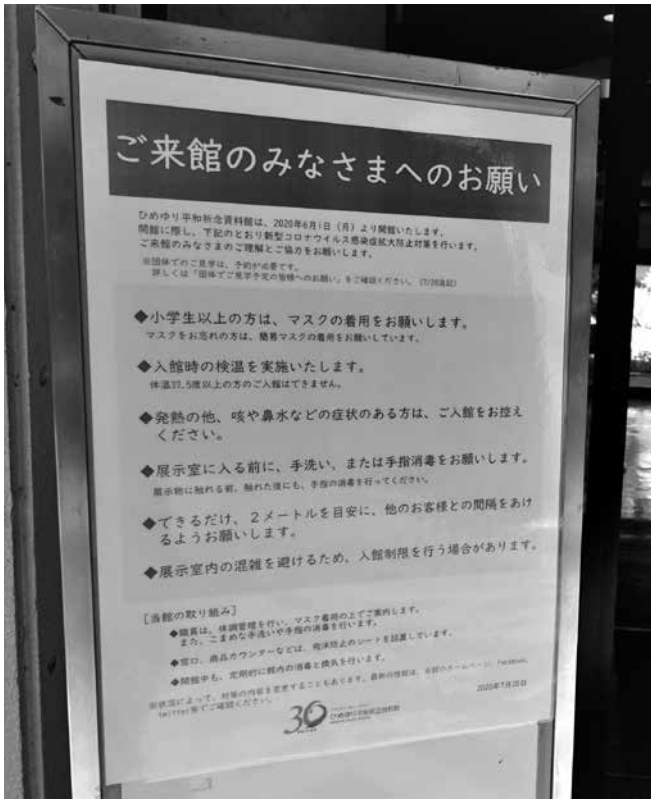
ひめゆり平和祈念資料館

資料館だより

感染症予防対策を行っています。みなさまのご協力お願いいたします



第 66 号

2020.11.30

目　次

●ご来館のみなさまへのお願い
—新型コロナウイルス感染症対策について—・・・・・ 1
●資料館トピックス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
展示リニューアルに向けて／2020 年度慰霊祭挙行／「平和のための博物館国際ネットワーク（ＩＮＭＰ）」ウェビナーに参加／「平和のための博物館・市民ネットワーク　オンライン全国交流会」に参加／糸満市平和ガイド育成事業に協力／百合の球根の寄贈／ New!! ひめゆり資料館オリジナルバッグ 販売中
●コラム　相思樹　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
● 2020 年度博物館実習生レポート紹介　・・・・・・ 6
●本棚（仲程昌徳）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
●仲宗根政善日記抄（62）　・・・・・・・・・・・・・・ 9
●資料館ガイド　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

ご来館のみなさまへのお願い　―新型コロナウイルス感染症対策について―

ひめゆり平和祈念資料館は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら開館しております。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

［ご来館のみなさまへのお願い］

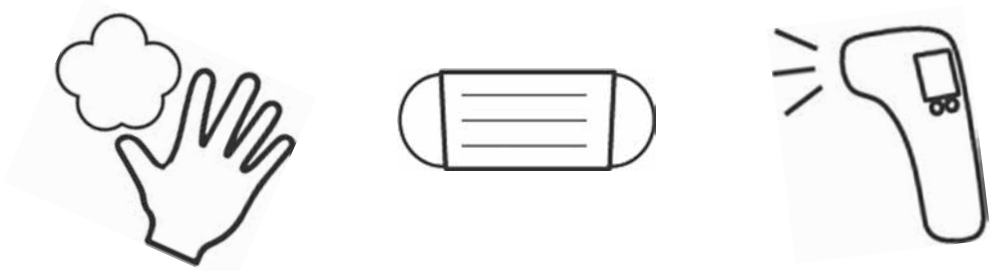
◆小学生以上の方は、マスクの着用をお願いします。
　マスクをお忘れの方は、簡易マスクの着用をお願いしています。
◆入館時の検温を行っています。体温 37.5 度以上の方のご入館はできません。
◆発熱のほか、咳や鼻水などの症状のある方は、ご入館をお控えください。
◆展示室に入る前に、手洗い、または手指消毒をお願いいたします。
　展示物に触れる前、触れた後にも、手指の消毒を行ってください。
◆展示室内では、ほかのお客様と適度な距離を保ち、なるべく会話を控えて、静かにご見学ください。
◆見学は順路に沿って行ってください。各展示室間の逆行はできません。
◆展示室内の混雑を避けるため、入館制限を行う場合があります。ご了承ください。

［当館の取り組み］

◆職員は、体調管理を行い、マスク着用の上でご案内します。こまめな手洗いや手指の消毒を行います。
◆窓口、商品カウンターなどは、飛沫防止のシートを設置しています。
◆開館中も、定期的に館内の消毒と換気を行います。
◆館内に消毒液を設置します。
◆新型コロナウイルス感染症対策とお願い事項を館内に掲示し、ホームページ、SNS 等で告知します。

今後の状況によっては、対策の内容が変更になることがあります。当館のホームページ、Facebook、Twitter 等で最新の情報をご確認下さい。

※団体でのご来館は、事前予約制となります。混雑状況によっては、入館を制限する場合もございます。
　詳しくは以下 URL、ＱＲコードをご覧頂くか、当館（098-997-2100）までお問い合わせ下さい。
　「団体でご見学予定の皆様へのお願い」 http://www.himeyuri.or.jp/JP/etc/20200720dataionegai.pdf



新型コロナウイルス感染症の影響により、入館者が大幅に減少している現状が新聞で報じられたことをきっかけに、多くの方々から、ご心配と励ましのお声をいただきました。ご寄付をお寄せくださった方々もいらっしゃいます。みなさまの激励は、私たちにとって、大きな支えとなっています。あらためてお礼申し上げます。

資料館トピックス

◆展示リニューアルに向けて

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、展示リニューアルオープンは 2021 年 4 月 12 日に延期になりましたが、準備は着々と進んでいます。

「戦争からさらに遠くなった世代」へ伝えるため、イラストの追加、写真の変更、新しい動画の導入など、視覚的な表現の工夫を進めてきました。「戦争を知らない世代」にも伝わる内容を目指して検討を重ねてきたテキストも、現在、ほぼすべてが完成に近いかたちになりました。展示用の英訳も進められ、証言映像への英字幕追加も行っています。タッチパネルや新ガイドブックの制作など、まだやるべきことはありますが、リニューアルオープンに向けて、取り組んでいます。

感染症の早期の終息を願うとともに、新しい展示でみなさまをお迎えできる日を心待ちにしております。

新設する導入展示の確認

デザイン案を確認しながらのミーティング

◆ 2020 年度慰霊祭挙行

6 月 23 日、「2020 年度 ひめゆりの塔慰霊祭」が挙行されました。

例年は 300 ～ 400 人ほどが参列しますが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、参列者を最小限にとどめ、ひめゆり同窓会会長や証言員（元ひめゆり学徒）、職員など約 20 人の小規模な慰霊祭となりました。ご遺族やひめゆり同窓生は自由参拝となり、焼香に訪れる方々の姿が夕方まで見られました。

戦後 75 年の節目の慰霊祭は例年と異なるかたちをとらざるを得ませんでしたが、密を避けながら訪れるご遺族の姿に励まされる 1 日となりました。

例年と異なり参列者の少ない慰霊祭

◆「平和のための博物館国際ネットワーク（INMP）」ウェビナーに参加

ウェビナーに参加する職員（上段中央）

9 月 16 日から「平和のための博物館国際ネットワーク（INMP）」の国際会議が、オンラインで開催されました。本来なら京都と広島が会場の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、初のオンライン実施となりました。

本会議では、4 つのウェブセミナー（ウェビナー）が特別に企画され、「学芸員・館長によるパネル」に、ひめゆり平和研究所所員の狩俣英美が参加しました。5 人のパネリストが各 5 分ほどの映像発表を行い、「記憶の継承」をテーマに、平和博物館が担う役割や今後の課題などについて議論が交わされました。コロナ禍による入館者の減少が、世界のミュージアムが抱える問題であることも共有されました。オンラインでの映像配信など、その問題を乗り越えるための工夫も報告され、オンラインでつながり情報を共有したり議論する可能性を見出すことができました。

録画されたウェビナーの様子は、下記のリンクから見ることができます。※配信期限あり

INMP ウェビナー：＜ https://sites.google.com/view/inmp-2020/web-02_directorscurators ＞

◆「平和のための博物館・市民ネットワーク　オンライン全国交流会」に参加

オンライン交流会への参加の様子

9 月 19 日、「平和のための博物館・市民ネットワーク　オンライン全国交流会」に普天間朝佳館長と前泊克美学芸員が参加しました。

全国から約 20 人が参加し、立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長の安斎育郎氏から「平和博物館・資料館に対する新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する調査」結果が、立命館大学国際平和ミュージアム専門委員の山根和代氏から『世界における平和のための博物館　2020』の完成とウェブ公開の報告がありました。調査結果からは、戦後 75 年の企画が中止や延期を余儀なくされたこと、臨時休館で経営への影響があったことなどが示されました。その後、各施設から現状や影響、オンラインを利用した発信についての報告がありました。初のオンライン開催でしたが、パンデミックという厳しい状況下での平和博物館のあり方や発信について考えさせられる場となりました。

◆糸満市平和ガイド育成事業に協力

9 月 12 日、「糸満市平和ガイド育成事業」の研修を受け入れました。戦争や平和について学ぶ糸満市内の中学生を、平和ガイドとして育成することを目的とした事業です。市内中学校の生徒と OG・OB を含む計 20 人が参加しました。

新型コロナウイルス感染症対策で例年同様の展示ガイドツアーが実施できないため、「平和講話」と自由見学、質疑応答となりました。終了後、受講生から「死亡原因に ” 自決 ” を見つけてびっくりした」、「普通の生活が、どんどん戦争に変わっていったのがわかった」という感想が聞かれました。研修修了後も、戦争や平和について伝える立場であることを意識し、意欲的に学びを深めてくれることを期待しています。

平和講話を聴く受講生

講話後の展示見学

◆百合の球根の寄贈

10 月 26 日、糸満市白銀ライオンズクラブ（会長山田達也氏、幹事久保田秀樹氏）から、百合の球根 50 球が寄贈されました。

白百合は、女師・一高女の校章のモチーフでもあるゆかりの深い花です。新型コロナウイルス感染症の影響で入館者減も続いているなかで、とても励まされる出来事となりました。

山田会長から百合の球根を受け取る館長

◆ New!!　ひめゆり資料館オリジナルバッグ　販売中

10 月 10 日からオリジナルバッグを販売しています。イラストレーター 三田圭介さんがひめゆり学徒の母校である女師・一高女の校章をバッグ用にデザインしました。シンプルで、味わいのあるデザインに仕上がっています。トートバッグ（大）、トートバッグ（小）、エコバッグの３種類が発売中です。資料館内のミュージアムショップにてご購入できます。郵送でのご注文も承ります。メール（himeyuri1@himeyuri.or.jp）またはお電話 (098-997-2100) にてお問い合わせください。当館 Facebook からも詳細をご確認いただけます。

エコバッグ 250 円

トートバッグ（小）700 円

トートバッグ(大) 1, 200 円

お出かけに便利♪

大きめのトートバッグ（中央）
幅 26cm ×高 34 cm ×奥 12 cm　白×ブラウン

小さめのトートバッグ（右）
幅 30 cm ×高 20 cm ×奥 10 cm　ナチュラル

エコバッグ（左）
幅 40 cm ×高 30 cm ×奥 10 cm　ブルー／不織布

相思樹

リニューアル展示づくりの経験

説明員　尾鍋拓美

今年の2月以降のコロナ禍により、当館も様々なことが予定どおりにはいかなくなりました。本来なら東京オリンピックと同じ、今年7月にはオープンしていたはずの展示リニューアルも、来年4月に延期となりました。開館以来初めての計約2か月以上におよぶ休館中も、テレワークで作業を進めましたが、まだまだ道半ばです。展示をつくるには、見る人の気持ちや見方も考えなければいけませんし、つくり手の伝えたいことや、こだわりもあります。また歴史や事実考証も必要です。展示テキスト一つ完成させるのも一筋縄ではいきません。リニューアルミーティングでは、外部の人が見ると「ちょっと怖い」と思わせるほど、白熱した議論が交わされます。

私は心のどこかで、資料館をつくった体験者たちには、同じ体験を持つ者同士の、共通した強い「伝えたいこと」があったはずだから、その点では体験者たちはそこまで苦労しなかったのではないか、と思っているところがありました。しかし、今回リニューアルの展示づくりを経験して、資料館づくりに携わった人ひとりひとりに、「伝えたい」という強い思いがあるからこそ、意見がぶつかりあうこともたくさんあったのではないか、と想像するようになりました。だからこそ、完成した時の喜びを皆で共有することができるのだと思います。

完成を喜ぶ日を夢みながら、オープンするその日まで、体調に気をつけて頑張ろうと思います。

2020 年度博物館実習生レポート紹介

９月２日から 12 日までの日程で、琉球大学法文学部国際言語文化学科から博物館実習生２人を受け入れました。紙面の都合により一部ですが、実習生の課題レポートをご紹介します。

沖縄戦やひめゆり平和祈念資料館での記憶の継承について

琉球大学法文学部国際言語文化学科　4 年次　知念小南海

実習で考えたのは沖縄戦全体を通して「継承」をどのように行っていくかである。戦後 75 年がたち体験者の数も年々減少の一途を辿る中で戦争を体験していない世代から子や孫の世代に引き継いでいくことになる。現在行っている平和学習の取り組みだけで戦争の恐ろしさや平和の大切さがどの程度子供たちに伝わっているのか、他人事や遠い昔の事で片付けられていないか考える必要があると思う。

私の体験だと小、中、高と学年が上がるにつれて平和学習の機会は少なくなっていったように思う。小学校の頃は「身近な戦争体験者の話を聞こう」という課題が出たり、「月桃の花」を歌ったり、学芸会で戦争の劇を行ったりした。しかし高校は年に数回の講習会と慰霊の日近辺で図書館奥に写真パネルや実物資料を展示するだけだったと思う。今の子供たちは身近な戦争体験者から話を聞くこともほとんどないだろうから、戦争がどういうものなのかを感じる機会がなくなってきているのではないかと思う。

ひめゆり資料館で証言員から説明員に戦争体験が語り継がれる取り組みは、これからの沖縄戦の記憶の継承の上でとても重要な役割を担っていくのではないか。平和博物館の多くは戦争体験者の映像を流したり、文字にしたりしている。今の価値観で見ると理解が難しかったり疑問が出たりすると思うが、なかなか学芸員に聞けなくてそのままということが起こり得ると思う。ひめゆりの場合だと説明員が展示室にいて直接話を聞くことができるため素朴な疑問でも聞きやすく、当時の状況や教育のために戦争に突き進んでしまったということが理解できるのではないだろうか。（中略）

映像コンテストの取り組みは、もう少し世間の認知が欲しいところである。第６展示室で上映できないだろうか。一般の方が作った映像であり、より来館者に伝わりやすい要素が多く盛り込んであるため是非様々な広報に使用してほしい。チラシや QR コードから YouTube を視聴するかと言われたらあまり多くの人はやらないだろう。資料館で上映した方が、関心が得られるのではないか。（中略）

平和教育が盛んだと言われている沖縄だが今のままの平和教育を続けていくと人々の興味関心が薄れ、再び戦争への道を進んでしまう未来があるかもしれない。それを阻止するためには沖縄戦での教訓や平和であることの尊さを伝え続けていかなくてはならない。ひめゆりにはその中心になるポテンシャルがあると考える。体験者と直接かかわり、活動を行ってきたからこそ伝えられること、館全体で体験者の思いを継承していく意識を持っていることは非常に大切なことだと思う。ひめゆりで実習させていただいたからには私も積極的に様々な企画や事業に参加して戦争体験を伝えていく行動をしていきたい。

沖縄戦教育と平和教育の未来を考える

琉球大学法文学部国際言語文化学科　4 年次　久貝友里菜

2、沖縄戦を伝える場所の課題

沖縄戦は地域ごとにその実相や特徴が異なっており、細分化されてトピックに分かれている。このことが沖縄戦の全体像を教えることの難しさに繋がっているのであろうと感じた。私がそのことを実感したのは、2019 年に出版された『沖縄戦を知る事典　非体験世代が語り継ぐ』を読んだ時である。（略）沖縄

戦の全体を伝えるにはこれほど多くのテーマに分けられ、その一つ一つにも研究の蓄積があることを再確認するきっかけになった。（略）ひめゆり資料館は、ひめゆり学徒隊の記憶を伝えるための資料館であるため、（略）何を伝えるのかが明確であることも、来観者に分かりやすい展示につながる。そのため、沖縄戦の記憶が「家族の歴史」から「一般的な歴史」への転換点に入る未来を考えたときに、館の方針は変えず、資料館以外での積極的アプローチが求められるのではないだろうか。

3、沖縄戦教育と平和教育の線引き

（略）実習期間で大きく考えが変わったことは、沖縄戦教育が平和教育に結びつかない時代に入っているのかもしれない、という問題意識が生まれたことである。沖縄戦を記録し研究することは、歴史研究の蓄積として意味のあることである。その情報があることが宝であり、価値あることなのだと大学生活を通して実感した。しかし、30 年以上経つと前述したように「家族の歴史」から遠くなり、沖縄戦を学ぶことを平和教育として結びつけるのは難しい。

戦争の本質として沖縄戦は重要な記憶であるが、「戦争をしない」という意見に説得力を持たせるための研究蓄積と、そのアプローチ方法を時代に合わせて検討していかないといけない。そのため、平和教育が沖縄戦教育に内在している形や、延長線上にある形ではなく、はっきり沖縄戦教育と平和教育を分けて考える必要性があるのではないだろうか。特に教育の現場では、テキストとして沖縄戦教育と平和教育の線を分け取り入れていかなければ、目的が明確にならず効果を発揮しなくなってしまう。ひめゆり資料館は沖縄戦の記憶継承・研究という沖縄戦教育にカテゴリーされ、その部分に忠実に取り組むことが求められる。実験的に実施してみたい取り組みについて次の項で述べたい。

4、博物館と図書館の連携

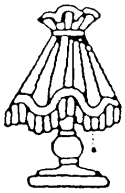
（略）現代の図書館は、増え続ける情報を利用者に迅速に提供するため、より能動的に、効果的な図書館利用を発信していくことが課題とされている。そこで、ひめゆり資料館の推薦図書コーナーを一定期間設ける実験を行ってみたい。①「戦争とは何か」を考える図書で入館の事前学習になり実際に来館に繋がる効果、②「平和を考える」がメインの図書で来館後や沖縄戦教育の事後学習になる効果、③ひめゆり資料館の活動を認知してもらう効果、の３つを目的としている。

推薦図書は、数を多くしすぎないことと、ひめゆり資料館の展示ではカバーしきれていないような平和教育に重きを置いた図書であることが大切である。ひめゆり学徒隊についての紹介図書ではなく、沖縄戦や平和を勉強したい利用者に対しての、ひめゆり資料館のお墨付き図書紹介ということになる。（略）

5、おわりに

（略）今回、人それぞれが持つ「ものさし」がどのように成長過程で形成されていくのか自分自身を振り返りながら、相手に自分の「ものさし」を押しつけてしまう恐ろしさと原因を深く考えさせられる実習でもあった。（略）この先 25 年で戦後 100 年になり、沖縄戦の記憶継承に対する研究が本格的に行われてくるようになるだろう。そのなかで、ひめゆり資料館の活動とその効果がどのように分析されていくのかを注目していきたい。

実習生を囲んで（左から３番目 知念小南海さん、左から４番目 久貝友里菜さん）



本　棚

仲程　昌徳

『「艦砲ぬ喰ぇー残さー」物語　「でいご娘」と父・比嘉恒敏が歩んだ沖縄』

（ボーダーインク，2015）

副題に「『でいご娘』と父・比嘉恒敏（こうびん）が歩んだ沖縄」とあるところからもわかるように、本書は、一世を風靡した「でいご娘」の家族の「物語」である。

比嘉恒敏の名前はともかく、「でいご娘」については耳にしたことがあるのではなかろうか。彼女らが歌う「艦砲ぬ喰ぇー残さー（かんぽーくぬくぇーぬくさー）」は、すぐに口をついて出てくるという人も多いにちがいない。歌は、それほどよく歌われている「民謡」であるが、その作者についてはほとんどの者が知らないのではないか。歌は知っているが、作者は知らないというのは、多くの「民謡」についても言えることで、そう特別なことではない。しかし、「艦砲ぬ喰ぇー残さー」に関しては、事情が少し違うのである。そのことを余すことなく解き明かしてくれたのが本書である。

著者は、「艦砲ぬ喰ぇー残さー」の歌碑に刻まれた「アメリカ軍は比謝川河口を中心として南北 10 キロ余の海岸から上陸」して来たという一文に気づかされたことだと言い、アメリカ軍の上陸地点を示す三つの碑について触れている。そしてそれらの地点に「70 年前、アメリカの黒い艦船が並び、水平線を埋め尽くしたという事実をイメージすることはそう容易ではない」だろうが、しかし、「想像力を働かせば、土地に刻まれた島の歴史があらためて浮き彫りになるはずである」と述べていた。

読谷は、米軍の上陸してきた地点の一つであった。そのことで、対照的な壕として知られるようになる事件が起こったシムクガマとチビリガマは、村民に大きな影を落としてしまったこと、さらには、収容所から戻って来てようやく落ち着きを取り戻しかけた時分、米軍の土地接収によって、強制的に住む場所を追われたこと、戦前から、移民、出稼ぎの多かった地域であったとはいえ、戦後もまた、読谷の人々は、八重山や南米への移住・移民を余儀なくされたといった「島の歴史」があった。

比嘉恒敏は、沖縄戦を体験していない。恒敏と妻シゲが大阪から戻って来たのは 1946 年の暮れであった。一旦収容所に入り、47 年には解放され村に戻るが、51 年には強制立ち退きにあって、新しい土地へ引っ越していく。

恒敏夫妻は、沖縄戦があったゆえに陥ったそのような苦難を村民と共にすることになるが、村にはまた、いかなる難儀な時にあっても息づいていたもう一つの「島の歴史」があった。村の伝統行事である。恒敏は「戦前から村芝居やエイサーなどの地謡（じーうてー）をして、歌三線のうまい青年として知られていた」と言われているように、沖縄民謡が得意であった。それが、厳しい生活を耐えさせるものになったことは間違いないし、やがて成長した娘たちを「でいご娘」として登場させることにもなっていく。

「でいご娘」は、脚光を浴び、各地から声がかかり、幾つもの公演をこなしていく。その絶頂期ともいえる 1973 年 10 月 10 日、公演の帰り、交通事故で、母シゲ即死、父恒敏重症、事故から四日後、死亡という悲劇が「でいご娘」を襲う。

恒敏が残した「艦砲ぬ喰ぇー残さー」が、レコーディングされるのは 1975 年、歌が生まれてから四、五年後のことであった。歌は「いくさ世の名曲としてレコードになり」評判をとる。それは「観光客が沖縄に押し寄せ、民謡クラブも大繁盛していた時期」であり、間もなく、三十三年忌がくるということもあって、「悲惨な体験を今こそ語らなければ、という機運がきざしはじめていた」ことなどが、「歌のブームに拍車をかけていた」ということはあっただろうが、何よりも人の心を打ったのは「懐かしいウチナーグチのニュアンスが巧みに表現されていたからでもあるだろう」と著者は指摘していた。

誰もが艦砲の生き残りだと、戦争と戦後の厳しさを歌った歌は、共感をもって歌い継がれてきた。そしてそれは、「厭戦、反戦の思いを伝えた沖縄民謡」といった受け取り方から「希望のメッセージ」へといった受け取り方に変化してきたというが、いずれにせよ、「艦砲ぬ喰ぇー残さー」が、戦争と関わって歌われた優れた表現になる歌であることは間違いない。

本書は、比嘉一家の足跡を丁寧にたどっているだけではなかった。あと一つ、忘れてはならない大切な点があった。それが最大の特色ともいえるが、「艦砲ぬ喰ぇー残さー」の歌詞ノートを発見し、その添削過程を明らかにしているのである。本書を契機にして「沖縄民謡」研究が、新しい段階に入っていくのではなかろうか。

仲宗根政善日記抄（61）

［1980 年］五月十六日

昨日は与儀公園で、5・15 県民大会が催された。数日前から、地方を平和行進をつづけて来た団体も加わり、反戦平和を叫び訴えた。主催者側発表によると四千名が集まったというから、実数はいくぶん下回ったのではなかろうか。土地問題がおきたときの那覇高校運動場に集まった数万の県民の熱気、復帰をさけんで神里（ママ）小学校校庭に灯燈をささげたときのあのもりあがりに比べるとまことにさびしい。日本は軍備拡張へと大きく動き出している。

数日前から、その美しい空を轟音をとどろかせて、米軍機がひっきりなしに飛びまわっている。米軍の実弾射撃演習ははげしくなるばかり。B52 戦略爆撃機が二十七機が飛来して来たと、今朝の新聞は報じている。

平和憲法のもとへ帰ると、本土復帰をた〔た〕えた。本土並みという政治家の欺瞞にみちたことばに、われわれは、最初からいかりを感じた。基地はそのまま、しかも核があるかないかは日米両政府とも確言はしない。非核三原則とは、本土においてのみのことである。復帰して八年、第九年目を迎えようとしているのに、基地は全国の五十三％をしめ、しかもその機能は日に日に強化されつつある。沖縄駐留の米海兵隊は、印度洋にもペルシャ湾にも進撃する態勢をとっている。

戦争を体験しない若者はふえて、今進行しつづけている軍備強化への潮流にも極めて無関心である。わずかに四千名しか集まらない与儀公園の反戦平和の集会があまりにもさびしい。それはほとんど組織の力で動いているのであって、住民の積極的参加は極めて少ない。日日と進行しつつある軍拡への方向をかつておかしたように再びあゆみつづけているのではないか。

米軍機の爆音が、戦争当時の悪夢をまざまざとかきたてている。

これが九年目の日本復帰の日だと、誰が予想したであろうか。

［1980 年］五月二十六日

韓国情勢の悪化で、嘉手納基地は緊張している。韓国近海に、すでに、長崎港を母港としている空母がすでに派遣されていると伝えられる。

Ｅ３Ａ機セントゥリー空中警戒管制機が、くりあげて、嘉手納空港に配置されている。すでに作戦行動を開始しているともいう。

朝から晴れ渡った空に、米軍機の爆音がとどろく。戦争中聞いていたあの爆音が、悪夢をかりたてる。

衆議院は十九日に解散。参議院・衆議院・参議県会議員、トリプル選挙で騒然としており、その結果が、平和の方向へ向くか、戦争へとすすむのか、まことに重大な時期である。世は一歩一歩、軍備拡大の方向に動きつつある。日本を一歩も軍事大国の方向にすすめてはならない。国を守ることが、国民の生命を守ることである。国に殉ずることによって何を守ろうとするのだ。生命の中にこそ、無限の価値があるのである。

沖縄の悲劇を、ひめゆりの塔をめぐる人々の手記として、復刊することにした。三十三年忌に、学友たちが、なくなった方々の写真を集めて、一枚は遺族にくばり、二枚はアルバムにして、同窓会館に保管してある。前々から、亡くなった生徒たちの写真をアルバムにして、永久に残したいと念願していた。

喜屋武断崖に追いつめられて、いよいよ死に直面したときに、誰にも知られずに、巌かげに朽ちてしまうのかと思ったとき、ひしひしと孤独感におそわれた。人間は誰しも、人々から忘れられたくない。肉親や学友から、世の人々からいつまでも忘れられずにいたいというのが真情である。そんな気持から、復刊に際して、手にはいった写真のすべてをのせさせてもらうことにした。

角川の編修（ママ）部では、値段を千円以下にしたい要望もあって、名簿と写真を除きたいとも申し出も

あった。商売上のことだったらお断りすると、ただちに返事しておいた。

しかし、遺族には、写真さえかしたがらない方がいる。学友たちが、お写真をかりに行ったら、今頃何だとおこられて追いかえされたとも聞いている。遺族の方々の心中は複雑である。今頃なくなった生徒の写真を出して、どのような思いをするのであろうか。涙のたねになるばかりではなかろうか。そんなことが、急に気になり出した。引率者の立場からすると、これらの生徒の名を顔をいつまでも胸に刻みつけておきたい。忘れ去ってしまいたくはない。遠くへと消えて行くことがたえられない。しかし、遺族の方々の心境は複雑にちがいない。よけいなことはしてくれるなという方もいないとも限らない。

このことから思わぬことがおこりはしないだろうかとの不安もつのる。善意でやったことが、すべてよい結果が生れるとも限らないのである。

かつて屋良ヨシのご遺族を名護為又（ビーマタ）に訪ねたことがある。ひめゆりの塔で、最期をとげたことは学友から聞いており、その旨を伝え、おとぶらいをするために訪ねたのであった。

祖父（じい）さんお一人が、おられた。私はあやまりにあやまり､その最期のことを申し上げた。しかし、祖父さんは、あなたは、たしかに、ヨシの最期を見とどけられましたかと詰問された。昔から行方未明になった死者は、七年たたなければお祀りはしていけないと言われる。私も七年たたない間は、ヨシの死を信じるわけにはいけなのだといわれた。私はべんかいの言葉がなく、あやまるようにして帰ったことがあった｡多くのご遺族たちは、なくなった事情をくわしく聞きたがっていた。しかしこの祖父（じい）さんはむしろ耳をつぶっていたかったのである。心の奥に残るいちるの望みを失いたくないと念願しているのであった。遺族の方々には、最期をとげたと信じたくない心理がある。それを打〔ち〕消すことがかえって酷である。

今後、けいさいする写真で、その一るの望みがけされるような、そういう複雑な心理がはたらくのではなかろうか。そういう遺族に対しては、写真は、悲しみをましこそすれ、何のなぐさみにもならない。心にえがかれた姿は美しい。それとはちがった写真を見たくもないのかもしれない。

［1980 年］五月二十八日

「ひめゆりの塔をめぐる人々の手記」の広告文が出来て来た。以前の本屋に比べるとはるかにまさっている。島尾敏雄さんの推薦のことばには、心うたれた。自らが深くかえりみられる。すばらしく美しい文である。

梅雨の晴れ間に、爆音をきくと、摩文仁の戦野が浮んでくる。新緑の野はすっかり、硝煙にこげてしまい、雨のために、米軍機はしばらく遠くへ去る。壕からはい出た傷病兵があちらこちらに立って、野の野菜をとっている。雷の遠鳴りのような音が聞え出した。やがて、一機二機とあらわれて来て、つかの間の自由な行動が封じられてしまって、再びぽとぽとと滴のたれる壕の中へもぐって行く。身をちぢめていて、再開された轟音を聞くのであった。

ほんのわずかの死からのがれた時間だっただけに、遠くにひびく米機のいまわしい音が、今も耳底を離れない。風雨に吹き飛ばされもしない堅固な建物の中にいて、飛行機の遠鳴りを聞く。すっかり現実を失って夢のように過去を追憶する。その□から世は平和をはなれて、戦争へと動いて行くのではあるまいか。なれはおそろしい。時の流れは一切のものを無力化するようにもみえる。まことにおそろしいことである。

※読みやすさを考慮して字句を補った箇所がある。〔 〕は編集で補った。
※旧字体は新字体へ変更し、明らかな誤字は改めた。

ひめゆり平和祈念資料館　ご利用案内

◆ 開館時間、料金、アクセス

1．入館受付：午前9時～午後5時（閉館は午後5時 25 分）　**2．休館日**：年中無休

3．入 館 料：①大人 310 円　②高校生 210 円　③小・中学生 110 円

団体（20 名様以上一括払）①大人 280 円　②高校生 190 円　③小・中学生 100 円

◆下記の通り、リニューアルにともなう休館と入館料改定を予定しております。ご了承ください。

展示リニューアルにともなう休館期間　2021（令和 3）年 3 月 22 日（月）～ 4 月 11 日（日）

2021（令和3）年 4 月 12 日（月）からの新入館料

個　　人　：①大人 450 円　②高校生 250 円　③小中学生 150 円

団体（20 名様以上一括払）：①大人 400 円　②高校生 200 円　③小中学生 110 円

4．交通案内

【路線バス】旭橋・那覇バスターミナルから［89 糸満線］で 約 30 分、糸満バスターミナルで［82 玉泉洞糸満線］に乗り換え約 15 分、ひめゆりの塔前下車

【モノレール・路線バス】モノレール那覇空港駅から赤嶺駅まで約4分、赤嶺駅前（糸満・豊崎向け）バス停で［89 糸満線］に 乗車し約 20 分、糸満バスターミナルで［82 玉泉洞糸満線］に 乗り換え約 15 分、ひめゆりの塔前下車

【車】那覇空港より約 30 分

◆ 団体のご見学について

新型コロナウイルス感染症対策のため、当面の間、**見学は予約制となります。必ず事前にご予約ください。**

◆多目的ホールご利用のご案内

ひめゆり学徒隊や沖縄戦について学ぶための平和講話（約 40 分）、ビデオ視聴（証言ビデオ「平和への祈り―ひめゆり学徒の証言」約 25 分、アニメ「ひめゆり」30 分）を事前予約制で承っております。ご予約は、資料館ご見学の団体に限ります。
ご予約時間は以下のとおりです。お電話にてホールの空き状況を確認後、ＦＡＸかメールにて申込書をお送り下さい。

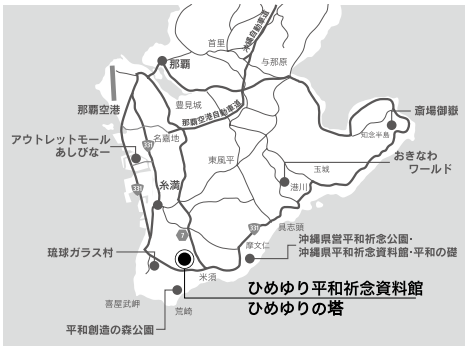
【講話 or ビデオ】　9：00　10：00　11：00　12：00　13：00　14：00　15：00　16：00

※年末年始（12 月 30 日、31 日、 1月1日～3日）・旧盆（旧暦7月 13 日～15 日）はビデオ視聴のみ受付可能です。
慰霊祭前後（6月 21 日～ 24 日）は、ビデオ上映会のため、予約はできません。

※ホールの収容人員は約 200 人（席）です。

※多目的ホールは講話及びビデオ視聴以外の目的（セレモニー等）には利用できません。

※予約時間に遅れた場合、予約状況によってはキャンセルさせて頂くこともございます。

※現在、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら開館しております。多目的ホールのご利用方法につきましても、感染症の拡大状況に応じて変更がある場合がございます。詳しくは、直接お電話にてお問い合わせください。

ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより 第 66 号
2020（令和 2）年 11 月 30 日発行
編集・発行：
公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館
〒 901-0344　沖縄県糸満市字伊原 671-1
☎ 098-997-2100　fax098-997-2102
HP：http://www.himeyuri.or.jp/
Facebook：https://ja-jp.facebook.com/HIMEYURI.PEACE.MUSEUM/